

# 名高同窓会報

発行所 名寄市徳田204番地1  
 北海道名寄高等学校同窓会  
 事務局 TEL 01654-3-6842  
 FAX 01654-3-6841  
 発行人 会長 梅野 博  
 (名高16期)  
 印刷所 (有)喜多印刷所

## ご挨拶

北海道名寄高等学校長

鈴木 究



4月に北海道教育庁石狩教育局から着任しました校長の鈴木でございます。

名寄高等学校同窓会には、日頃から本校の教育活動に對しまして、ご理解とご協力、さらには多大なるご支援を賜り心から感謝申し上げます。

着任する前から、同窓生の母校への「熱い思い」に接する機会が数多くありました。その都度、本校に對する期待の大きさを感じたところでございます。

さて、令和3年度の本校も、昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、一部の教育活動を制限せざるを得ない状況でのスタートとなりました。特に部活動については、名寄市内において、感染者数の増加時期と重なったこともあり、地区大会の実施が危ぶまれましたが、名寄市様をはじめ、管内各市町村のご判断により、感染症対策を徹底することで、開催することができたところでございます。

現在、学校は、全日制普通科9クラス

(1年生・82名・3クラス、2年生・92名・3クラス、3年生・96名・3クラス)全校生徒270名・3間口の規模で、生徒数の減少傾向が止まらない状況です。

学校としましては、生徒増に向けた取組をなり振り構わず行っていますが、一部の地域から志願増はあったものの、成果として現れていないのが現状です。このような中、本校同窓生が中心となって立ち上げた、「名寄の高校の魅力発信する市民サポーターの会」により、地域広報誌やSNSなどでの生徒の活躍をはじめとする本校の魅力について情報発信していただいておりますことに、校長として、心より感謝するとともに、心強く感じているところでございます。

生徒の近況についてですが、卒業生の進路は、国立大学に26名の現役合格者を出し、ここ数年、増加傾向が続いているところでございます。一方で、近年は公務員希望者が増加する他、自分の進路についてしっかりと考えた上で進路先を決定する、「進路の多様化」も見られます。

部活動は、昨年度は、各種大会が中止や開催方法の変更等により、生徒の活躍する機会が少なくなりましたが、今年度はその鬱憤を晴らすように、本校生徒が躍動しました。特に、新聞局が全国高等学校文化祭に20年連続21回目の出場を果

たし、優良賞を受賞した他、女子バドミントン部団体が11年ぶりの地区大会優勝を飾り、ソフトテニス部、卓球部、陸上部、剣道部、吹奏楽部などにおいて、団体や個人の全道大会の出場を果たしました。

学校行事は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施が危ぶまれた名高祭ですが、学友会執行部の熱意と創意溢れる工夫が実現を引き寄せ、2年振りの行灯行列やクラス展示、演劇、Mステ等、感染症対策をした上で大いに盛り上がり、最後は涙のフィナーレとなりました。同窓生の皆様から引き継いできた伝統をしっかりと「つなぐ」名高祭となりました。

さて、新型コロナウイルス感染症は、北海道はもとより、世界各地で人々の生命や生活、価値観や行動、さらには経済や文化社会全体に広範かつ多面的な影響を与えています。現代はまさに予測困難なVUCA(ブーカ)時代が到来したと言えましょう。VUCAとは、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Complexity(複雑性)を表していますが、Society 5.0時代に向けた動きや、デジタル・トランスフォーメーション(DX)の潮流と相まって、今までの考え方では答えの見つからない社会問題にどう取り組んでいくかという大きな問題を提起しています。このような中、名高においては、生徒にどのような力を付けて卒業させていくかが改めて問われています。

ご承知の通り、来年度は創立100周年を迎えることになり、準備委員会を立ち上げ、記念事業の内容を確認し、動き出しているところでございます。今後とも同窓会の皆様と力を合わせて、周年事業の成功に向けて取り組んでまいりますので、一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

また、本年6月には、道教委により、令和5年度に本校と名寄産業高等学校が統合し、本校校舎を増築の上、普通科単位制4クラス、情報技術科1クラスの新設校を設置するとの発表がありました。既に両校職員による統合推進委員会を立ち上げておりますので、現在、名寄市設置の「名寄市内高等学校魅力化推進委員会」と連携を図りながら、統合に向けて準備を進めているところでございます。

時代の転換期と本校の節目が同調している中ですが、同窓会の皆様には、今後とも温かなご支援とご教示、叱咤激励を賜れば幸いです。



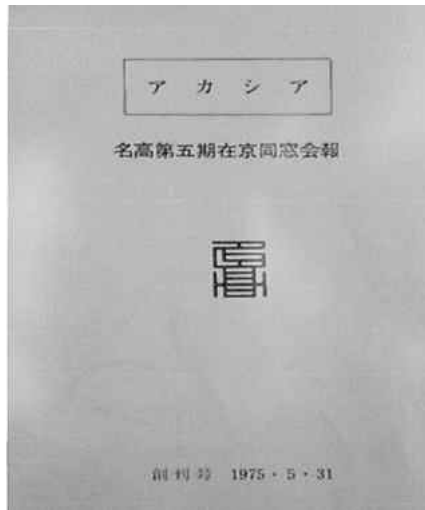
名高第75期  
アカシア会報  
終刊に寄せて

「アカシア」創刊号は東京会の方々によって昭和50(1975)年5月に発行されました。以来、平成17(2005)年2月までに30号を数え、続いて新名称「新アカシア」を同年12月から令和元(2019)年6月のNo.23発行まで、名高5期生の親睦を深めてきました。令和2(2020)年2月からは「アカシア会だより」を発行し、令和3(2021)年3月のNo.3をもち、終刊となりました。

創刊号から46年間もの間、多くの原稿やアンケート、現在の名寄高校の様子など、充実した内容の会報を通して、会員の方々が親交を深めてきました。

「アカシア会」は今後も続きますが、今回の終刊に寄せて会報の軌跡をご紹介します。

表紙の変遷



創刊号 昭和50年  
カットは校章のみ。  
在京同窓会報として  
出発したのですね。



No.10 昭和58年  
小樽運河の図。大正3年から10年の歳月を要して完成。南北に1,200m、幅40mの水路である。周辺の石造り倉庫群とともに歴史的評価は高い。  
C組 石川朝朗君の作。



No.12 昭和62年発行の同期会名簿(表)  
小樽市天狗山スキー場。山頂からの眺めは国内三指に入るといふ。スキー歴史観あり。表・裏共にC組 石川朝朗君の作。



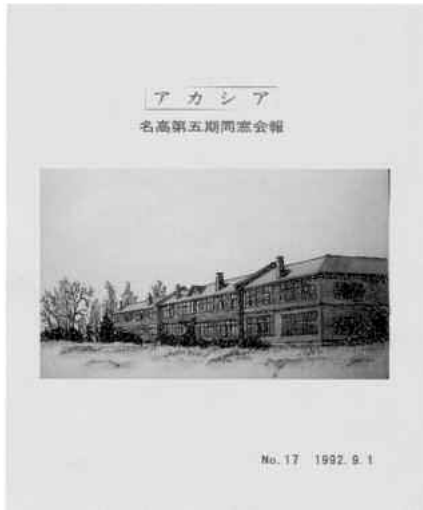
No.12 昭和62年発行の同期会名簿(裏)  
小樽市日和山灯台。積丹半島の付け根、小樽湾内の灯台。ニシン大漁に沸いた当時をしのぶ「ニシン御殿」がすぐ下にある。



No.13 昭和63年、卒業35周年記念誌、表と裏の絵。  
この絵は絵画部のE組 宮武静子(藤田)さんをお願いしました。私たちにとつての名寄高校は、日本のどこに住んでいてもふるさとのひとつです。



そのふるさとの顔ともいえる正面玄関と青春の夢を追い続けて走り回ったグラウンドの片隅に、置き忘れたようにあったポンプ。記憶の糸を垂線のようにしてたぐり寄せ、想い出を鮮明にして下さい。  
(No.13の編集部・前東記)



No.17 平成4年  
表紙の白黒写真をカラー原画に戻してプリント。卒業35周年記念同期会に作成した手拭カットに色彩を付して母校に寄贈した。  
C組 石川朝朗君作。



No.25 平成11年  
創刊25周年記念号  
昭和27年頃の旧木造校舎で「名寄高新聞」第9号がトップ記事に掲載した校歌の歌詞と共に紙面を飾った写真。  
D組 能登実君撮影



新アカシアNo.1  
平成17年  
新アカシア第1号の刊行に寄せて(本間)によると、新アカシアに形が変わるのを機にタイトルの文字を一新したいと思い、C組 石田啓君に揮毫を依頼した。



No.23  
昭和、平成と続いたアカシア号も令和を迎え最終号を迎えた。札幌が事務局になってから新聞型のこのスタイルになった。

## 札幌アカシア会総会



## 札幌アカシア会の 傘寿記念同期会

平成26年6月9日  
会場:KKRホテル札幌

註 札幌以外の地区から多くの参加がありました。

## 懐かしい旧校舎の表示板 (材料は陶器)

提供: E組 長谷川 巖君



入るときは少し緊張、  
ドアが重々しい感じの  
校長室



呼び出されたり、相談  
に行ったり思い出の教  
員室



3年間何かとお世話に  
なった事務室

令和2年度卒業生 進路別合格者数 (延べ数)

北海道名寄高等学校 進路指導部

Table with columns for school type (国公立大, 道内私立大, 道外私立大, 国公立短大, 私立短大), school name, gender (男, 女), and total count. It lists various universities and colleges across Hokkaido and their respective graduates.

※令和3年3月26日現在

令和3年及び4年度総会について

昨年度(令和2年度)の同窓会総会は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、懇親会は行わず総会のみ開催となりました。2020年10月9日(金)、駅前交流プラザ「よろーな」にて、令和元年度決算報告、令和元年度同窓会会計及び事業積立金決算報告、監査報告、令和元年度会務報告及び令和

2年度行事年間計画、令和2年度同窓会会計予算審議、本部役員改選について等の議事に沿って進めました。今年度(令和3年度)につきましても、昨年同様総会の実施となります。

同窓会報第55号の原稿募集

令和4年10月発行予定の同窓会報55号の原稿と広告を募集しています。

会報の掲載内容は、同窓会各員や各支部地区役員、同窓生個人の原稿、旧職員の原稿、支部だより、同期会、だより、同窓生の活躍状況などがあります。寄稿先は事務局(〒096-0007 1名寄市字徳田204名寄高校同窓会事務局TEL01654-31684)までご連絡ください。原稿は各自のパソコンで作られたものでも、手書きでもかまいません。写真は使用後に返却いたします。今後、同期会だよりや同窓生の活躍状況などを積極的に掲載させていただきます。どうかと考えておりますので、ご協力をよろしく願います。

後書

今年も同窓会報の発行にあたり、多くの方々から寄稿をいただきました。今後、若い世代の同期会開催の報告や総会・懇親会への参加を願っております。多くのご協力、本当にありがとうございます。